

1 学校経営協議会を設置する理由

小平第五中学校は小平市内で最も西部に立地する中学校である。青梅街道から数百メートル南にあり、周囲を住宅と学校施設に囲まれている。近隣には学校施設として幼稚園から大学までを擁する白梅学園、創価中学校及び高等学校、武蔵野美術大学等があり、教科指導や部活動、地域交流において連携している。他にも豊かな自然があり、玉川上水、中央公園、テニスコートを併設する上水公園など、校外学習で活用している。

中学校区の小学校は第一小学校、第十二小学校、上宿小学校であり、中学校体験入学や年3回の小・中連携の日、小平特別活動の日等で児童・生徒及び教職員の交流がある。

昭和46年に開校し、令和3年には50周年式典を行った本校の特徴として、地域住民に卒業生が多いことが挙げられる。本校周辺には戸建て住宅の割合が高く、卒業生が地域住民として現在も多く居住しており、保護者として本校に訪れる卒業生もいる。また地域で働く卒業生もあり、2学年の職場体験先の受入先に卒業生がいたとのエピソードもあった。

本校に訪れた卒業生の話によく聞かれる言葉が「懐かしい」である。本校の校舎が増築を繰り返しながら現在も開校当時の校舎や体育館を使用しているためであり、校舎そのものも卒業生や保護者の本校への愛着に影響していることが窺える。

新型コロナウイルス感染症への対応としてICTを活用した情報発信や、PTA活動の整理等、家庭とよりつながる取組を進めてきた。このことは現在の家庭の状況にあった協力体制や情報共有の形を工夫することにつながった一方で、家庭が学校の様子を知る機会の減少や、家庭や地域が学校とつながって教育活動を支援する機会の不足にも影響している。

既に本校の周辺には地域のリソースがあることから、コミュニティ・スクールとして学校が家庭や地域とどのようにつながっていくか、学校経営協議会を核として模索しながら検討と実践を繰り返していくことが、今後の本校に必要であると考え、学校経営協議会を設置することとした。

2 保護者及び地域住民の意向の状況

保護者は以前に比べて共働きの比率が高まっているものの、比較的時間が取りやすい家庭もあり、保護者会や各種説明会への参加人数は平日においても一定数ある。何らかの形で本校の教育活動に関わりたいと考えている保護者も比較的多く、図書ボランティアや花壇の整備等で定期的に来校してくださっている。また、地域住民も本校の教育活動に好意的である。

令和6年度に東京都型学校運営協議会を設置した際には元PTA会長、大学の教授、市内の福祉施設経営者等、さまざまな識見を有する方が委員となり、本校の教育活動のさらなる活性化へ協力をいただいている。

保護者、地域住民に共通するのが「何かあれば協力したい」という言葉で、気持ちはあるが、それを取組にする場が認識されていない、またはマッチしていない状況がある。本校に学校経営協議会が設置されることで、これらをリソースとして活用し、さまざまな教育活動に「つなげる」ことができると考える。

3 学校経営協議会の委員の構成

白梅学園清修^{せいしゅう}中高一貫部の前校長（1名）、民間児童福祉施設経営者（1名）、都立高等学校校長（1名）、児童館館長（1名）、大学教授（1名）、都スクールカウンセラー（1名）、元PTA会長（1名）、保護者（1名）、地域教育コーディネーター（1名）、副校長（1名）
※校長はオブザーバーを務める。主幹教諭（1名）が事務局を担う。

4 学校経営協議会の活動内容（予定）

(1) 会議の開催回数

年4回の開催を予定

※学校経営方針の承認等を行う。

※他に、学校行事や教員の研修等に参加する。

※別途、各プロジェクトで臨時の会議を都度開催する。

(2) 学校経営協議会の体制

会長（1名）、副会長（2名）、広報（2名）、会計（2名）、副校長（1名）

※必要なプロジェクトを都度設置する。この際担当を1名1役とするのではなく、必要に応じて割り当てることで、流動的な組織体制とし、プロジェクト同士の連携が図りやすいようにする。

プロジェクト名	内容
学力向上プロジェクト	保護者や地域の支援をつなぎ、生徒の学習環境を整備することで、生徒の学力向上をめざす。 (英語検定、漢字検定、数学検定、放課後学習教室、水曜日自習室 等)
ボランティアプロジェクト	保護者や地域が学校への支援を通して交流するとともに、生徒との交流を深め、支援の輪を広げる。 (図書ボランティア、花壇の整備、こだごサポーター、第一小学校・第十二小学校・上宿小学校の学校経営協議会との交流 等)
健全育成プロジェクト	生徒の健全育成をめざし、多様な居場所の整備や地域組織との連携を進める。 (不登校支援、部活動地域移行、地域防災訓練 等)

(3) その他活動の概要

- ・学校評価の方法検討、学校評価
- ・保護者や地域の考えや思いの把握と学校への共有

5 その他

特記事項なし